





**デューク・エリントン**  
**エリントン・ミュージック VOL.1**

**A Duke Named Ellington**

**1. イントロダクション**

“A列車で行こう”

**2. 1920年代のNY**

**3. ハリウッドへ進出**

『チェック・アンド・ダブル・チェック』より “オールド・マン・ブルース”

**4. オーケストラを自在に操ったエリントン**

“ロッキン・イン・リズム”

**スター・プレイヤー達**

5.(I) ジミー・ハミルトン “バーデイト” “アドリブ・オン・ニッポン”

6.(II) ジョニー・ホッジス “アテネのタイムズ”

7.(III) ベン・ウェブスター “コットンテイル” “オール・トゥ・スーン”

**8. 優れたバンド・リーダーであったエリントン**

“アフロ・ユーラシアン・エクリプス” “ジ・オーブナー”

**9. ピアニストとしてのエリントン**

“アドリブ・オン・ニッポン” “ソリテュード”

日本語字幕：落合寿和 (HEATHER)

昨年(1999年)はデューク・エリントン(1899-1974年)が生まれて100周年にあたる年だった。それもあって、本人が残した作品を始めさまざまな形のトリビュート・アルバムが発表され、また世界各地でイベントが開催されたことも記憶に新しい。その節目の年の最後を締め括るに相応しい作品としてビデオアーツ・ミュージックから発売されたのが「エリントン・ミュージック」と題された映像作品である。こちらはビデオ・カセットでの発売だったが、本作はそのDVD版だ。

エリントンはポピュラー・ミュージックの巨星として今世紀を代表する人物のひとりである。彼が生涯に残した作品は2000曲とも3000曲とも言われているほどだ。一方でエリントンはジャズ界で最高のオーケストラを率いていたリーダーでもある。最高の曲を書き、最高のオーケストラを率い、最高のリーダーであったのがエリントンだ。このビデオはそんな彼の業績を、現存する映像と本人および彼を取り巻くさまざまな人物のインタビューを用いて浮き彫りにしたものである。

エドワード・ケネディ「デューク」エリントンがワシントンD.C.でこの世に生を受けたのは1899年4月29日のことだ。父親がホワイトハウスの執事という中流家庭に育ったため、黒人ながら幼少のころから品がよくて、そこからデューク(侯爵)と呼ばれるようになったという。少年時代の彼は絵にも才能を発揮し、1914年から17年までのアームストロング高校時代には、黒人種向上協会が主催したボスター・コンテストで連続入賞を果たしたほどだった。

どちらかと言えば、スポーツよりも絵を書いたりピアノを弾くことを好んだエリントンは、この高校時代から地元の酒場やホールでピアノを弾くようになり、ワシントンD.C.の人気店として知られていた「ブードル犬カフェ」で、専属のレスター・

ディッツマンの都合が悪いときは代役でピアノを弾くまでになっていく。そしてこの時期から作曲にも手に染めるようになり、処女作として知られる「ソーダー・ファウンテン・ラグ」もこの店で初演されたと言われている。

こうしてプロの道を歩み始めたエリントンは、ヘンリー・グラントという地元ではよく知られた音楽教師についてハーモニーを学び、高校卒業後は「アボット・ハウス」の次席ピアニストを経てオリエンタル劇場の専属ピアニストに雇われたのだった。この時期には時間があればさまざまなグループに入って演奏も行っている。エルマー・スノーデン、ラッセル・ウディングといったひとたちが彼を雇ったリーダーだ。1920年代初頭にはザ・デュークス・セレナイダーズというグループを結成して短期間ウイスコンシンで仕事をしたが、このときの経験から彼はワシントンD.C.から外に出て活動したいという希望を持つようになる。

そのエリントンが初めてニューヨークに出たのは1923年3月のことだ。ウィルバー・スウェットマンのグループで1週間働き、その後は一度ワシントンD.C.に戻り、すぐに今度は上記のスノーデンが結成したワシントンニアンズの一員としてアトランティック・シティで仕事をしたのだった。その後はこのグループでニューヨークの「バロン・ウィルキンス・クラブ」に出演し、次いで「ハリウッド・クラブ」の専属になっている。そして年が明けた1924年の春には、スノーデンがワシントンD.C.に戻ってしまったため、エリントンがリーダーとなってバンドを引き継ぐことになった。

ここにエリントンの本格的なレギュラー・グループがスタートしたのである。このバンドで1925年から27年にかけて東海岸一体をツアーして回っていた彼が一躍人気者になるのは、1927年にニューヨークのハーレムにあった「コットン・ク

ラブ」にレギュラー出演するようになってからだ。

この作品の冒頭でウィリー・ザ・ライオン・スミスがエリントンの真似をしてピアノを演奏する映像が登場するが、ここからしてもこのビデオには大きな期待が寄せられそうだ。そのスミスがニューヨークに出てきたころのエリントンのことを語っている。その言葉通り、彼は敏感マネージャーのアーヴィン・ミルズと契約したことで才能を理想的な形で開花させたのだった。

「コットン・クラブ」の契約を取ってきたのもミルズである。彼がエリントンのことを紹介する映像も貴重な。当時のハーレムは現在と違って高級社交場が林立する地域だった。中でも「コットン・クラブ」は上流階級のひとびとやスターたちセレブリティが集う人気スポットで、エリントンのオーケストラもこの店に出るようになって幅広いポピュラリティを獲得したのである。そしてこの時代に、彼は名高いジャングル・ミュージックと呼ばれる独特のサウンドを確立し、多くの優れたオリジナル曲を発表したのだった。

そのあたりのことも、この作品では興味深い映像や専属歌手だったアデレイド・ホールの証言によって紹介されている。ホールは「クレオール・ラヴ・コール」にフィーチャーされたシンガーだ。その彼女がそのときの思い出を語り、この手のドキュメンタリーを観る楽しみだ。彼女とエリントンのやりとりが興味深い。

エリントンのオーケストラは「コットン・クラブ」の時代に概容が整い、メンバーも次第に固定されていく。それとこの時代からラジオが普及し、「コットン・クラブ」からも毎夜実況中継が行われるようになった。当時のことをビデオではエリントンが直接語ってくれる。

彼が偉大だったのは、膨大な数にのぼる作曲活動もさることながら、オーケストラのリーダーとして優れた手腕を発揮したことだ。エリントンによれば、当時のオーケストラは白人のサウンドが基本になっていた。それを彼は黒人ならではのサウンドで表現したのである。それが例のジャングル・ミュージックだ。

基本的にエリントンのオーケストラは、すべて自身が書いたオリジナルか、後に彼の右腕的存在としてオーケストラに関わってくる作編曲家のビリー・ストレイホーンが書いた曲をレパートリーにしていた。言ってみれば、エリントンのオーケストラは自作の曲を発表する場でもあったのだ。

加えて彼は、常にオーケストラのメンバーを特定し、そのプレイヤーを念頭において曲を書くというスタイルを取っていた。つまりメンバーから見れば自分の持ち曲を与えられたことになる。それもあって、このオーケストラはメンバーの出入りがほとんどないことでも知られていた。

ビデオでクラーク・テリー、クートイ・ウィリアムス、ラッセル・プロコップ、ジミー・ハミルトンといったひとたちが語っているように、主要なメンバーはみな20年はざら、30年以上在籍したひとでも何人かいたほどだ。そのエリントン・オーケストラの中でも番頭格だったアルト奏者のジョニー・ホッジスとエリントンの関係をメンバーや評論家のレナード・フェザーが語る下りは逸話として非常に面白い。それとギヤラやバンド維持の話も、中々外部に伝ってこない興味深い内容である。

ところで「コットン・クラブ」で大成功を取めた以後のエリントン・オーケストラはまさに破竹の勢いにあった。この作品では徐々にキラ星のようなメンバーが集まってくるところも、かつての仲間たちの証言によって紹介されている。

とりわけ1940年にテナー奏者のベン・ウェブスターが加入したことは、エリントンにとってもオーケストラにとっても重要な出来事だった。それまでこのオーケストラにはテナー専門のプレイヤーがいなかったからだ。何とサクソフ・セクションのメンバーが曲によってテナー・サクソフを持ち替えて吹いていたのである。「コットン・クラブ」時代の演奏がエリントン・オーケストラにとって初期のサウンドであるとすれば、ウェブスター時代は中期の、そしてもっとも充実したサウンドを体现するものとなった。

エリントンがメンバーひとりひとりに曲を書いていたのは、とりもおさず彼らがエリントンにとって重要な存在だったからだ。彼は常に最高のメンバーを求めている。それだけにオーケストラに加わったミュージシャンたちをとて大切に思っていたのである。それがメンバー個々にオリジナル曲を書くという手法にも繋がることとなった。

メンバーのインタビューからも、エリントンが彼らのことをいかに大切に思っていたかが覗かれる。こうした話を聞いていると、エリントンはたしかに偉大なひとだったが、メンバーもその偉大なリーダーにさまざまな面で協力していたことがよく判る。

全員の気持ちがい、いいオーケストラを作ろう、いい音楽を演奏しようという点でひとつにまとまっていたからこそ、エリントン・オーケストラは偉大な存在になれたのだろう。いくらエリントンひとりが偉大だろうと天才だろうと、それだけではこのようなオーケストラも音楽も生まれなかった。そのことをさまざまなひとたちのインタビューを用いて伝えているのがこの作品だ。

それはベン・ウェブスターのこんな言葉からもよく理解できる。

“デュークが立つと、いまも理解できないが、バンドがひとつになる。不思議だった。厳しいことを言うわけでもない。何も言わない。怒ることもない。でも彼の考えが伝ってくるんだ。あんな男はデューク以外にいない。威張って指示を出しはしない。細かく気を使うのが憎いくらいまい。だから言うのさ。オーケストラでの演奏は最高のスリルだった”。

『第1集』の最後には、ピアニストとしてもエリントンがユニークな天才だったことが紹介されている。スイング・ピアノの最高峰だったテディ・ウィルソンと、エリントン・ミュージックから大きな影響を受けたモダン・ベースの巨匠チャールスマニングスの証言がいずれも興味深い。

エリントンのオーケストラは、彼のピアノ・プレイを聴けば判るが、そのスタイルをオーケストラ化したものだった。独特のタッチとハーモニーは、スタイルや世代を超えてユニークな響きを有している。そのことは彼のオーケストラ・サウンドともピッタリと一致するものだ。

[©WINGS 00021553;小川隆夫/TAKAO OGAWA]



絶賛発売中!

各¥3,800(税別)

**ザ・ビートルズ** / マジカル・ミステリー・ツアー  
●COBY-90003

**ザ・ビートルズ**  
メイキング・オブ・ア・ハード・デイズ・ナイト  
●COBY-90004

**ザ・ビートルズ**  
ビートルズがやって来るヤァ!ヤァ!ヤァ![決定版]  
●COBY-90005

**ザ・ビートルズ**  
ヘルプ!4人はアイドル[決定版]  
●COBY-90006

**ザ・ビートルズ** / ザ・ビートルズ・ストーリー  
●COBY-90007

**ローリング・ストーンズ** / アット・ザ・マックス  
●COBY-90008

**モントセラト島救済コンサート**  
~ポール・マッカートニー、エリック・クラプトン、  
エルトン・ジョン、他~  
●COBY-90009

**ジョン・レノン** / スウィート・トロント  
プラスチック・オノ・バンド・フィーチャリング・  
エリック・クラプトン  
●COBY-90010

**パット・メセニー・グループ**  
ウィ・リヴ・ヒア ライヴ・イン・ジャパン 1995  
●COBY-90011

**クリーム 黄金の軌跡**  
エリック・クラプトン、ジャック・ブルース、  
ジンジヤール・ベイカー  
●COBY-90012

**エリック・クラプトン・コンサート**  
●COBY-90013

**セックス・ピストルズ** / 伝説のラスト・ライブ  
●COBY-90015

**セックス・ピストルズ** / ライヴ・イン・テキサス  
●COBY-90016

**セックス・ピストルズ**  
勝手に見やがれ~ライヴ・イン・ジャパン  
●COBY-90017

**アストル・ピアソラ** / ライヴ1984  
●COBY-90018

**ジミ・ヘンドリックス**  
メイキング・オブ・エレクトリック・レディランド  
●COBY-90019

**ジミ・ヘンドリックス** / ベスト・ライブ!  
●COBY-90020

**ウッドストック 1969・8・15**  
~ジョン・パエス、アロ・ガスリー、ジョン・セバスチャン、  
カントリ・ジョー・マクナルド、リッチー・ヘイヴンス、他~  
●COBY-90021

**ウッドストック 1969・8・16**  
~ジャニス・ジョプリン、スライ&ザ・ファミリー・ストーン、  
ジェファーソン・エアプレイン、ザ・フー、サンタナ、他~  
●COBY-90022

**ウッドストック 1969・8・17**  
~ジミ・ヘンドリックス、クロスビー・スティルス&ナッシュ、  
ザ・バンド、ジョー・コッカー、テン・イヤーズ・アフター、他~  
●COBY-90023

**イヴニング・オブ・フォープレイ Vol.1**  
~ボブ・ジェームス、リー・リトナー、  
ハーヴィ・メイスン、ネイザン・イースト~  
●COBY-90024

**イヴニング・オブ・フォープレイ Vol.2**  
~ボブ・ジェームス、リー・リトナー、  
ハーヴィ・メイスン、ネイザン・イースト~  
●COBY-90025

**ジョン・コルトレーンの世界**  
●COBY-90026

**パット・メセニー**  
シークレット・ストーリー・ライブ  
●COBY-90027

**パット・メセニー** / モア・トラヴェルズ  
●COBY-90028

**リー・リトナー&フレンズ・ライブ Vol.1**  
●COBY-90029

**リー・リトナー&フレンズ・ライブ Vol.2**  
●COBY-90030

**スティヴィー・ワンダー**  
メイキング・オブ・キー・オブ・ライブ  
●COBY-90031

**ザ・バンド** / メイキング・オブ・ザ・バンド  
●COBY-90032  
**ポール・サイモン**  
メイキング・オブ・グレイスランド  
●COBY-90033

**ピーシーズ** / グレイテスト・ヒッツ・ライブ  
●COBY-90034

**ダイアン・シューア&  
カウント・ベイシシー・オーケストラ**  
スベシャル・ライブ  
●COBY-90035

**ディヴィッド・サンボーン&フレンズ**  
ザ・スーパー・セッション  
●COBY-90036

**チック・コリア&フレンズ**  
バンド・バウエルへの追想~ライブ  
●COBY-90037

**イエス** / ライヴ 1975 Vol.1  
●COBY-90038

**イエス** / ライヴ 1975 Vol.2  
●COBY-90039

**イエス** / ライヴ・イン・フィラデルフィア 1979  
●COBY-90040

**ワイト島1970** 一種かきロックの残像~  
ジミ・ヘンドリックス、ドアーズ、ザ・フー、エマーソン、  
レイク&パーマー、マイルス・デイヴィス、他  
●COBY-90041

**ザ・シークレット・ポリスマン・ロック・コンサート**  
エリック・クラプトン、ジェフ・ベック、ステイニング、  
フィル・コリンズ、ビート・タウンゼンド、他  
●COBY-90042

**スーパースター・ロカビリー・セッション**  
カール・パーキンス、エリック・クラプトン、  
ジョージ・ハリソン、リンゴ・スター、他  
●COBY-90043

### 偉大なるジャズの歴史

ジョン・コルトレーン、マイルス・デイヴィス、  
チャーリー・パーカー、デューク・エリントン、他  
●COBY-90044

### ブルース・ランド／ブルースの誕生

マディ・ウォーターズ、ハウリン・ウルフ、ローリング・ス  
トーンズ、チャック・ベリー、エルヴィス・プレスリー、他  
●COBY-90045

### ジャネット・ジャクソン

ザ・ヴェルヴェット・ロブ・ツアー・ライブ [完全版]  
(5.1chサウンド)  
●COBY-90046

### ビー・ジーズ／ザ・ベスト・ヒッツ・ライブ

スペシャル・ゲスト：セリーヌ・ディオン  
(5.1chサウンド)  
●COBY-90047

### ビリー・ホリデイ／ビリー・ホリデイの真実

●COBY-90048

### レイ・チャールズ／ザ・ジニアス・オブ・ソウル

●COBY-90049

### カウント・ベイシー／スイングの心象

●COBY-90050

**コーネル・デュプリイ featuring リチャード・ティ**  
ニューヨーク・ライブ  
●COBY-90051

**アンダーソン、ブラッフォード、ウェイクマン、ハウ**  
イエス・ミュージックの夜 Vol.1  
●COBY-90052

**アンダーソン、ブラッフォード、ウェイクマン、ハウ**  
イエス・ミュージックの夜 Vol.2  
●COBY-90053

**ボブ・マーリー／ワン・ラヴ・ピース・コンサート**  
●COBY-90054

**ジョー・コッカー／グレイテスト・ヒッツ・ライブ**  
●COBY-90055

### サラ・ヴォーン／聖なる歌声

●COBY-90056

### セロニアス・モンクの肖像

●COBY-90057

### リー・リトナー&デイヴ・グルーシン

ライブ・フロム・レコード・プラント

●COBY-90058

### ハイラム・ブロック／ニューヨーク・ライブ

●COBY-90059

### ジョニ・ミッチェルの肖像／ジョニ・ミッチェル

(5.1chサウンド)

●COBY-90060

### スティーヴ・ハケット&フレンズ

ライブ・イン・ジャパン

●COBY-90061

**ミシェル・ベトルチアーニ・トリオ**  
～スティーヴ・ガッド、アンソニー・ジャクソン  
ライブ・イン・コンサート  
●COBY-90062

**トリビュート・トゥ・ジョン・コルトレーン**  
セレクト・ライブ・アンダー・ザ・スカイ '87 10thスペシャル  
●COBY-90063

### マンハッタン・トランスファー

ヴォーカリーズ・ライブ '86

●COBY-90064

### デイヴィッド・サンボーン&フレンズ

ザ・スーパースェッション II

●COBY-90065

### ボニー・レイット／グレイテスト・ヒッツ・ライブ

～フィーチャリング・ブライアン・アダムス、ジャクソン・ブラウン

●COBY-90066

### ブラック・サバス

ストーリー・オブ・ブラック・サバス・オジー・オズボーン・イヤーズ

●COBY-90067

### ブラック・サバス

ストーリー・オブ・ブラック・サバス Vol.2

●COBY-90068

### カーメン・マクレエ・ライブ

(ダイレクト2chデジタル録音)

●COBY-90069

### 100 ゴールド・フィンガーズ

～ピアノ・プレイハウス～Vol.1

●COBY-90070

### 100 ゴールド・フィンガーズ

～ピアノ・プレイハウス～Vol.2

●COBY-90071

**ジョニ・ミッチェル**  
シャドウズ・アンド・ライト [完全版]  
●COBY-90072

### ゲール・フォース

アイリッシュ・ミュージック・フェスティヴァル  
●COBY-90078

### オスカー・ピーターソン with ジョー・パス・ライブ

●COBY-90079

### GRPオールスターズ Featuring ダイアン・シユア

●COBY-90080

### RITスペシャル／リー・リトナー・ライブ

●COBY-90081

### フリートウッド・マック

メイキング・オブ・ルーモアズ

●COBY-90082

### グレイトフル・デッド

メイキング・オブ・アメリカン・ビュティ

●COBY-90083

### ディジョネット・ハンコック・ホランド・メセー

イン・コンサート (HDライブ)

●COBY-90084

### ザ・ガッド・ギャング／デジタル・ライブ

～スティーヴ・ガッド、コーネル・デュプリイ、  
リチャード・ティーン、他  
●COBY-90085

### リッキー・リー・ジョーンズ／ライブ1992

●COBY-90086

### リック・ウェイクマン／ライブ1975

●COBY-90087

リック・ウェイクマン / ライヴ1990

●COBY-90088

モトセツト鳥獣済済コンサート[完全版]

(トリビュート) デジタル5.1サラウンド/DTS5.1サラウンド)

●COBB-90001 ¥4,700(税抜)

クラシック・アルバム  
U2 / ヨシヤ・トリー

●COBY-90089

クラシック・アルバム  
ボブ・マーリー&ザ・ウェイラズ

キャッチ・ア・ファイヤー

●COBY-90090

クラシック・アルバム  
ミートローフ / 地獄のロック・ライダー

●COBY-90091

クラシック・アルバム  
スティーリー・ダン / 彩(エイジャ)

●COBY-90092

クラシック・アルバム  
ザ・フー / フーズ・ネクスト

●COBY-90093

クラシック・アルバム  
フィル・コリンズ / 夜の囁き

●COBY-90094

プリンス・トラスト 1986

～ポール・マッカートニー、エリック・クラプトン、  
エルトン・ジョン、ロッド・スチュワート、他

●COBY-90095

プリンス・トラスト 1987

～ジョージ・ハリソン、リンゴ・スター、  
エリック・クラプトン、エルトン・ジョン、他

●COBY-90096

プリンス・トラスト 1988

～エリック・クラプトン、エルトン・ジョン、  
ピーター・ダフリエル、フィル・コリンズ、他

●COBY-90097

プリンス・トラスト 1989

～スイング・アウト・シスター、ヴァン・モリソン、  
レヴェル42、アレクサンダー・オニール、他

●COBY-90098

プリンス・トラスト 1990

～レニー・クラヴィッツ、リサ・スタンスフィールド、  
チャカ・カーン、WET WET WET、他

●COBY-90099

ナイアシン

ビリー・シーン・プロジェクト・ライヴ・イン・ジャパン

●COBY-90101

ザ・ローリング・ストーンズ

ハイド・パーク・コンサート

●COBY-90102

ザ・ドアーズ / ドアーズ・アー・オープン

●COBY-90103

ジェームス・ブラウン / ロスト・テュー

●COBY-90104

ケニー・ドリュウ / ライヴ・イン・ヨーロッパ'92

●COBY-90105

トリビュート・トゥ・ビル・エヴァンス

●COBY-90106

伊藤君子 / イヴニング・ウィズ・キミコ・イトウ

●COBY-90107

ラッシュ / グレイテスト・ビデオ・ヒッツ

●COBY-90108

ベスト・オブ・ベイ・シティ・ローラーズ

●COBY-90109

シカゴ・ブルースの伝説

マディ・ウォーターズ、チャック・ベリー、ローリング・ストーンズ、他

●COBY-90110

デューク・エリントン / エリントン・ミュージック VOL.2

●COBY-90112

ジュリー・アンドリュース・イン・コンサート

●COBY-90113 ¥4,700(税抜)

◆メニュー画面について

1. メニューボタンを押すとメニュー画面が表示されます。
2. カーソル移動ボタンでご希望のチャプターを選び、決定(選択)ボタンで決定すると、そのチャプターの再生が開始されます。



NTSC 日本語字幕付

●このプログラムは、4:3画面サイズで収録されています。

| トラックNo. | 音声仕様                | 録音方式 | 音声内容及び言語 |
|---------|---------------------|------|----------|
| 1       | リニアPCM(48kHz,16bit) | ステレオ | オリジナル    |



DVDビデオは映像と音声を高密度に記録したディスクです。  
DVDビデオ対応のプレーヤーで再生してください。

くわしい再生上の取扱方については、ご使用になるプレーヤーなどの取扱説明書をご覧ください。

- 取り扱ひ上の注意 ●ディスクは両面に指紋、汚れ、キズなどをつけないように取り扱ってください。  
●ディスクが汚れたときは、メガネふきのような柔らかい布で内周から外周に向かって放射状に軽くふき取ってください。レコード・クリーナーや溶剤などは使用しないでください。●ディスクは両面に鉛筆、ボールペン、油性ペンなどで文字や絵を書いたり、シールなどを添付しないでください。●ひび割れや変形、又は接着剤などで補修したディスクは、危険ですから絶対に使用しないでください。
- 保管上の注意 ●直射日光の当たる所、高温・多湿な場所での使用・保管は避けてください。●ご使用後、ディスクは必ずプレーヤーから取り出し、専用ケースに入れて保管してください。●プラスチックケースの上に重いものを置いたり、落としたりすると、ケースが破損し、ケガをすることがあります。



Producer, Director : Terry Carter  
Writer, Co-Producer : Leonard Malone  
Executive Producer : Susan Lacy  
Assistant to the Producer : Beate Glatved  
Narrator : Terry Carter

Archival Film  
BBC Television  
Sveriges Television  
Danmarks Radio TV  
Canadian Broadcasting Corporation  
Turner Entertainment, Inc.  
MCA/Universal

Archival Photographs  
Time, Inc.  
Donna Mussenden-Van Der Zee  
The Schomburg Center for Research in Black Culture

Special Thanks to  
Ruth Ellington  
Danmarks Radio TV  
National Endowment for the Arts

A Co-Production of  
Council for Positive Images, Inc. and American Masters / WNET

"A Duke Named Ellington"  
©MCLXXXVIII  
Council for Positive Images, Inc. All Rights Reserved

Under License Through VideoArts Music, a Division of IMAGICA Media, Inc.

DVD

A Duke Named Ellington VOL.1

COBY-90111

COLUMBIA

# デューク・エリントン | エリントン・ミュージック VOL.1

## A Duke Named Ellington

- 生誕100年を迎えた20世紀の音楽界を代表する巨人、デューク・エリントンの人と音楽を貴重な映像で綴ったヒストリー・ビデオの決定版。
- 20年代、ハーレムのコットン・クラブ出演時の貴重な映像の他、栄光のエリントン楽団を彩ったジョニー・ホッジス、ジミー・ハミルトン、ベン・ウェブスター、ポール・ゴンザルヴェスなどのスター・プレイヤー達や、エリントン自身の貴重な演奏シーンが続出。全音楽ファン必見のビデオ作品。



### ■演奏シーン

- コットン・クラブでの演奏シーン
- ハリウッド映画『チェック・アンド・ダブル・チェック』
- ロッキン・イン・リズム：ポール・ゴンザルヴェス、ジミー・ハミルトン、ハリー・カーネイ、ジョニー・ホッジス、ラッセル・プロコップ
- アドリブ・オン・ニッポン：ジミー・ハミルトン
- アテネのタイモン：ジョニー・ホッジス
- オール・トゥ・スーン：ベン・ウェブスター 他、多数

### ■出演

- デューク・エリントン・オーケストラ：  
クラーク・テリー (tp)、ルイス・ベルソン (ds)、ジミー・ハミルトン (cl)、ラッセル・プロコップ (cl)、ベン・ウェブスター (sax)、他
- レナード・フェザー (評論家)
- ウィリー“ザ・ライオン”スミス (ピアニスト)
- アーヴィン・ミルズ (エリントンの初期のマネージャー) 他、多数

“A Duke Named Ellington”

©MCM LXXXVIII

Council for Positive Images, Inc. All Rights Reserved

Under License Through VideoArts Music, a Division of IMAGICA Media, Inc.

COBY-90111 57分 片面・一層 MPEG-2/NTSC カラー (一部モノクロ) JASRAC レンタル禁止 00.4.21



| トラックNo. | 音声仕様   | 録音方式 | 音声内容及び言語 |
|---------|--------|------|----------|
| 1       | リニアPCM | ステレオ | オリジナル    |

■日本語字幕スーパー入り

■解説書付き

発売元：日本コロムビア株式会社 MANUFACTURED BY NIPPON COLUMBIA CO., LTD. JAPAN



このディスクを個人的に楽しむなどのほかは、権利者に無断で複製(異なるテレビジョン方式を含む)、放送(無線、有線)、公開上映、レンタルなどに使用することは法律で禁じられています。

DVD

デューク・エリントン / エリントン・ミュージック VOL.1

COBY-90111

COLUMBIA